巻 頭 の こ と ば

令和6年度に執行いたしました本市行政事務について、その概要を報告いたします。

本市を取り巻く社会経済情勢が急速に変化する中、時代の流れや新たな課題への確に対応しながら、本市の将来像である「住んで楽しいまち よなご」を目指し、様々な施策を進めてまいりました。

とりわけ、「歩いて楽しいまちづくり」の取組として、駅前通りの歩行空間拡大の実現に向けた実証実験の実施、だんだんバス「歴史コース・まちなかコース」の本格運行の開始やI C O C A導入による公共交通の利用促進に加え、まちなかと郊外の一体的な発展を図るため、弓浜エリアでの新たな循環バスの実証実験を開始するなど、「新商都よなごのまちづくり」を進めてまいりました。

また、パリオリンピック・パラリンピックでの米子市出身者3人の世界の舞台に挑む姿は、多くの市民に勇気と感動を与えてくださったほか、「ねんりんピックはばたけ鳥取2024」において、本市では県内最多の7種目の交流大会を実施し、各会場で熱戦が繰り広げられる中、大会や関連イベントに多くの皆様に参加いただいたことで、世代を越えた交流の輪が広がり、高齢者を中心として健康増進や社会参加の促進に繋がりました。

さらに、医療・福祉のまちづくりの推進の取組として、地域の主要医療機関との連携・協力のもと、診察券のデジタル化などの利便性向上や医療機関の業務効率化を図るアプリ「新とりりんりん」の運用を開始し、市内医療機関で活用いただいているところです。

加えて、こども・若者に関する施策を一体的・総合的に、より一層推進するため「よなごっこ未来計画（米子市こども計画）」を策定いたしました。地域全体でこどもと若者の成長と自律を支援し、将来にわたって幸せな生活を送ることができる「こどもまんなか社会」の実現に向けた施策を推進してまいります。

そして、令和7年3月31日に旧米子市と旧淀江町の合併から20周年を迎え、この節目に「米子市まちづくりビジョン」を改定いたしました。新たなビジョンのもと、「住んで楽しいまち よなご」の実現に向けて、引き続き力強く施策を前に進めるとともに、鳥取県西部圏域はもとより、中海・宍道湖・大山圏域の一体感の醸成と連携の強化に努めながら、産業や観光などの振興策に取り組み、圏域全体の発展を目指してまいります。

市議会議員各位、並びに市民の皆さまのご意見とご協力をいただきながら、引き続き、市政運営にまい進する所存でございますので、どうか一層のご指導、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和7年8月

米子市長 伊 木 隆 司